



三河校区地域振興計画

令和8年3月
三河校区まちづくり協議会

サマリー（概要）

三河校区地域振興計画は、人口減少や高齢化が進む現実を前提に、「これまで通り」を続けるのではなく、これからも無理なく続けられる三河校区の形を探るための計画です。住民アンケートと全2回のワークショップを通じて見えてきたのは、担い手不足や空き家の増加といった個別の課題が複雑に作用し合い、その結果、役割や仕組みそのものに限界が生じつつあるという事実でした。

本計画では、それらを個人の努力や意欲の問題としてではなく、構造の変化として捉え直し、**暮らしを支える、人と未来を育てる、場と資源を活かす**という三つの視点から再設計を試みています。目指すのは、誰かが無理をして支える地域ではなく、**関われる人が関われる形で関わり、次世代に“頑張り”だけを引き継がない地域の姿**です。対話を重ねながら、減らす覚悟と整える知恵をもって、これからの10年を歩んでいきます。



目次

第1章	はじめに	3
1-1	地域振興計画の見直しについて	3
1-2	プロセス	4
1-3	体制	5
第2章	三河校区の概要	6
2-1	三河校区の位置	6
2-2	成り立ち、史跡	6
2-3	人物	7
2-4	産業	7
第3章	三河校区を取り巻く現状と変化	8
3-1	人口・世帯構成の推移	8
3-2	高齢化の進行と暮らしの変化	9
3-3	産業・農地・働き方の変化	9
3-4	道路・交通・生活基盤の現状	9
3-5	生活環境・安全・安心をめぐる変化	10
3-6	10年前の計画以降に見えてきた課題	10
第4章	住民アンケートおよびワークショップから見た地域の声	11
4-1	アンケートの概要	11
4-2	自由記載意見の整理方法	11
4-3	声の多かったテーマとその特徴	11
4-4	代表的な意見から見える暮らしの実感	12
4-5	10年前の計画との比較から見える変化	12
4-6	アンケートから見えてきた三河校区の課題像	12
第5章	住民ワークショップの実施と対話の記録	13
5-1	ワークショップ実施の位置づけ	13
5-2	第1回ワークショップの概要	13
5-3	第1回ワークショップで見えてきたこと	14
5-4	第2回ワークショップの概要（未来を描く）	14
5-5	「暮らしを支える」テーブルでの対話	15
5-6	「人と未来を育てる」テーブルでの対話	15
5-7	「場と資源を活かす」テーブルでの対話	16
5-8	第2回ワークショップから見えてきたこと	16

第 6 章 優先的に取り組むべき課題	17
6-1 優先課題を整理する考え方	17
6-2 課題の優先度整理のプロセス	17
6-3 優先的に取り組むべき課題（１）	17
6-4 優先的に取り組むべき課題（２）	18
6-5 優先的に取り組むべき課題（３）	18
6-6 課題相互の関連性	19
6-7 本計画における重点課題の整理	19
第 7 章 テーマ別ビジョン（三河校区が目指すこれからの姿）	20
7-1 テーマ① 暮らしを支える	20
7-2 テーマ② 人と未来を育てる	21
7-3 テーマ③ 場と資源を活かす	21
7-4 テーマを貫く考え方	22
第 8 章 アクションプラン（ビジョンを現実につなげるために）	23
8-1 短期（おおむね 1～3 年） 現状を見える化し、対話を続ける段階	23
8-2 中期（おおむね 4～6 年） 試しながら形をつくる段階	23
8-3 長期（おおむね 7～10 年） 仕組みとして定着させる段階	24
8-4 アクションプランの進め方	24
第 9 章 計画の推進体制と役割分担	26
9-1 計画を進めるための基本的な考え方	26
9-2 協議会の役割	26
9-3 住民の役割	26
9-4 外部人材、組織の役割	26
9-5 行政・関係機関との連携	27
9-6 計画の振り返りと見直し	27
第 10 章 おわりに	27

第1章 はじめに

1-1 地域振興計画の見直しについて

三河校区まちづくり協議会では、平成27年度に三河校区の10年後を目標に「三河校区地域振興計画」を作りました。これは、私たち住民自身が、地域の課題を認識し、あるべき地域の将来を描き、それを実現していくために、住民と行政がそれぞれの役割を分担して、地域の課題を解決するためのものです。

三河校区は、全体的には住みやすさはあるものの、地域の課題は、自然環境・景観充実への取り組み、歴史文化の継承、安全・安心で暮らせる地域の確立、少子高齢化への対応、地域活動と住民交流の向上、地域産業の活性化など多岐にわたっています。

これをもとに、平成29年度から3年間矢部川河川敷に彼岸花の球根を植栽する活動を行いました。



彼岸花植栽の様子

また、令和3年から3年間で防災マニュアルを作成し、災害問題の解決のために地域住民の理解と協力が得られました。

しかし、この計画も10年を経過し、見直しが必要になりました。さらなる地域の活性化のためには、新たな10年に向けて地振興計画を見直し、地域活動を創生していくことが必要であります。

1-2 プロセス

本計画の更新は、事務局による検討から始めるのではなく、住民の声を起点とすることを基本方針として進めました。

まず、令和7年7月に三河校区全世帯を対象とした住民アンケートを実施し、636件の回答を得ました。選択式設問に加え、自由記載欄を設けることで、日常の暮らしの中で感じている違和感や期待を幅広く収集しました。

その結果をもとに、令和7年12月10日および令和8年1月14日の2回にわたり、住民ワークショップを開催しました。各回とも50名を超える参加があり、アンケート結果の共有から出発し、課題の構造整理、未来像の言語化へと段階的に対話を深めました。

第1回では「課題を共有し、構造を整理すること」を目的とし、事象・課題・行動を仕分けながら現状認識を揃えました。第2回では「未来を描くこと」を目的とし、「暮らしを支える」「人と未来を育てる」「場と資源を活かす」の三つの視点から、三河校区が目指す姿を言葉にしました。

その後、事務局においてアンケート結果およびワークショップでの発言内容を整理・分析し、優先課題とビジョンの骨子を構築しました。本計画は、**行政主導でも、特定の委員による提案でもなく、住民の対話の積み重ねを編集・構造化したものです。**

地域振興計画策定の流れ

令和7年 5月28日	地域振興計画アンケート内容審議	酒井田公民館
7月	地域振興計画アンケート実施	各行政区
8月	地域振興計画アンケート調査集計	事務局
9月20日	役員会・運営委員会	酒井田公民館
12月10日	地域振興計画ワークショップ（第1回）	三河小学校 体育館
令和8年 1月14日	地域振興計画ワークショップ（第2回）	三河小学校 体育館
2月28日	役員会で地域振興計画策定審議	酒井田公民館
3月14日	運営委員会で地域振興計画審議・策定	酒井田公民館
3月下旬	振興計画更新版を世帯に配布	

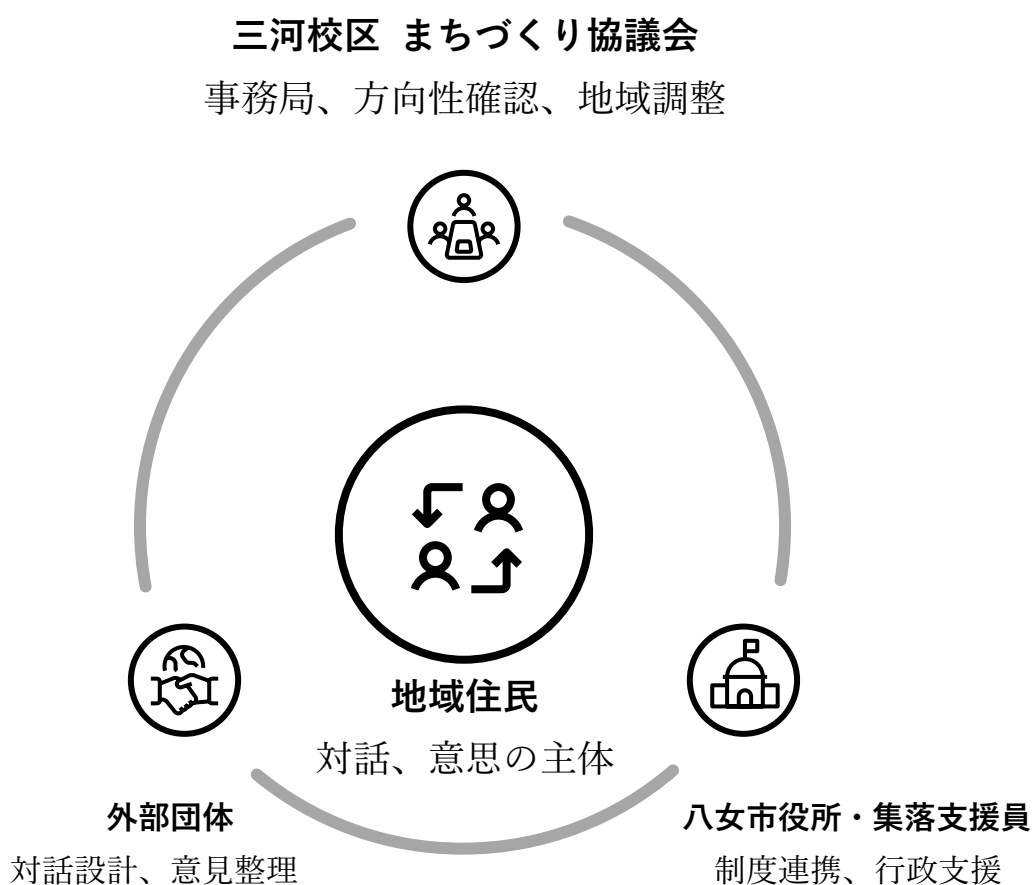
1-3 体制

本計画の見直しは、三河校区まちづくり協議会を主体として進めました。協議会が全体の方向性を確認しながら、八女市集落支援員、市役所関係職員、外部支援団体と連携し、住民参加の場づくりと計画整理を行いました。

住民アンケートの実施、2回のワークショップの企画・運営、意見の記録・整理にあたっては、対話の設計や言語化支援を担う外部人材の協力を得ました。外部の役割は、地域の意思を代弁することではなく、住民の声を引き出し、整理し、構造化、可視化することにあります。

協議会は、地域の実情を踏まえた判断主体としての役割や地域住人への声掛けを担い、集落支援員および行政は制度や施策との接続を支える立場として関わりました。それぞれの立場や強みを活かしながら、無理のない分担のもとで計画の更新を進めています。

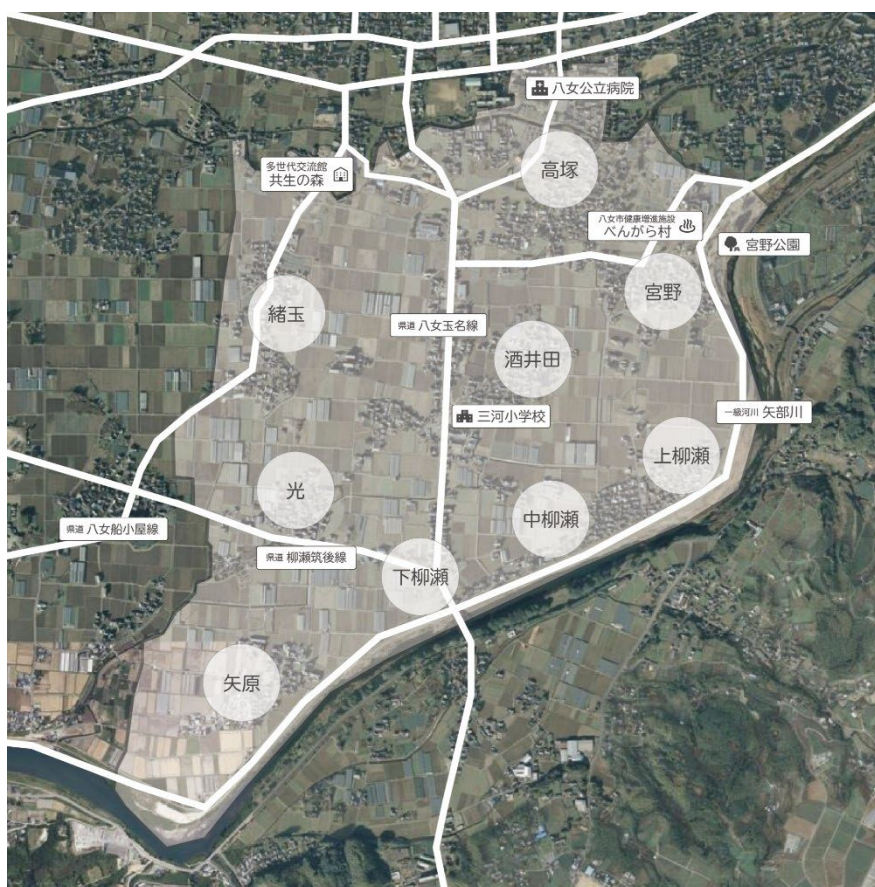
本計画は、特定の個人や団体が作成したものではなく、住民の対話を基盤に、多様な主体が役割を分かち合う中で構築されたものです。



第2章 三河校区の概要

2-1 三河校区の位置

北は、福島校区、東と南は矢部川に接し、西は八幡校区と接しています。中央を南北に県道八女玉名線が、西の端を八女船小屋線が下柳瀬から西に県道柳瀬筑後線が通っています。



地理院地図（電子国土 WEB）（ <https://maps.gsi.go.jp/> ）を加工して作成

2-2 成り立ち、史跡

明治22年4月1日、酒井田村・高塚村・宮野村・柳瀬村・矢原村・光村・緒玉村の7か村が合併して「三河村」が誕生し、昭和26年に福島町に編入合併、昭和29年4月1日に八女市となりました。三河の名は、南中学校正門前のある「三河堰」からとったものです。この堰は花宗川の水をせき止めて3つの灌漑用水路へ流し、三河地区の田畑を潤しています。

深田遺跡：八女市酒井田・緒玉に所在する4世紀前半頃の豪族居館と考えら

れている遺跡です。弥生時代の終わり頃から古墳時代初頭頃の、八女の歴史的背景や八女古墳群の成立を考える上で大変貴重な遺跡です。

2-3 人物

酒井田柿右衛門：戦国時代、酒井田には武将酒井田氏が居住していました。天正10年（1582）3月肥前の竜造寺軍が迎春城を攻めたとき、10歳の酒井田弥次郎が人質として肥前に連れていかれました。その長男酒井田喜三右衛門（きそえもん）が陶工初代酒井田柿右衛門になります。

坂本繁二郎（1882-1969）：洋画家。明治15年久留米に生まれました。（同じ年画家青木繁も久留米に生まれる。）明治33年母校の図画代用教員となり、その後青木繁を追って上京しました。大正10年フランスに渡り、大正13年久留米に戻り制作を続けました。昭和6年（1931）三河村緒玉にアトリエを建て、福島町に住み多くの作品を残しています。昭和31年文化勲章を受章。昭和44年87歳で没した。代表作に「水より上がる馬」「放牧三馬」などのほか静物や能面をモチーフにした作品、晩年は月を題材にした作品があります。

現在アトリエは久留米市の石橋文化センターに移築され跡地のみとなっていて、三河小学校の児童たちがときどき跡地の清掃を行っています。

今里龍生（1907-1999）：高塚出身の彫刻家。八女公園の坂本繁二郎画伯の銅像や市役所の平和の像を製作。また、三河小学校体育館には、手すき和紙の政策風景を描いた3部作があります。

2-4 産業

農業：米麦の栽培をはじめ、電照菊・イチゴなどの栽培が盛んです。

伝統工芸品：八女手漉和紙。200年以上の歴史を持ち、以前は矢部川沿いの地域で農閑期の仕事として手漉き和紙が作られていたが、今は数件のみとなっている。ほかに提灯・仏壇・八女矢などの伝統工芸品もあります。

第3章 三河校区を取り巻く現状と変化

ここでは、各種の統計データや、住民アンケート、まちづくりワークショップを通して見えてきたことから、地域を取り巻く現状や変化をまとめています。

3-1 人口・世帯構成の推移

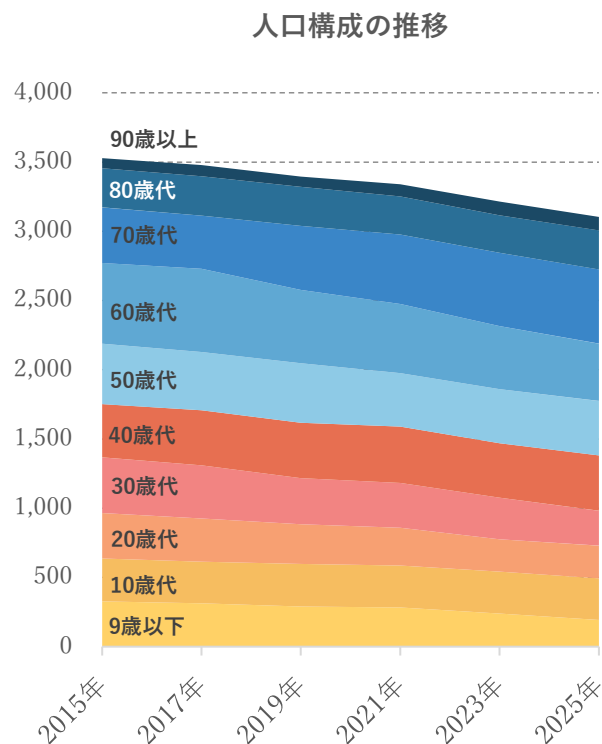
三河校区では、ここ10年ほどの間に人口減少と高齢化が着実に進んでいます。世帯数は大きく変わらない一方で、高齢者のみの世帯や単身世帯の割合が増加し、地域の支え合いのあり方にも変化が生じています。これまで地域活動を支えてきた世代が高齢期を迎える一方で、新たな担い手となる若い世代は限られていること、また、共働きが増える、2拠点生活などの生活スタイルの多様化により、地域行事への参加が難しいなどの声もあり、地域全体として「無理のない関わり方」を模索する必要性が高まっています。

三河校区人口の推移（2015～2025）

	2015 年	2017 年	2019 年	2021 年	2023 年	2025 年	2015 年から の変動率(%)
9 歳以下	327	313	290	283	240	193	59.0
10 歳代	310	301	307	303	301	300	96.8
20 歳代	328	311	287	272	235	237	72.3
30 歳代	402	384	334	324	300	252	62.7
40 歳代	385	399	400	407	393	399	103.6
50 歳代	436	420	428	386	390	394	90.4
60 歳代	583	600	531	499	457	414	71.0
70 歳代	401	384	463	503	528	535	133.4
80 歳代	283	285	282	275	272	282	99.6
90 歳以上	73	80	73	87	99	98	134.2
計	3,528	3,477	3,395	3,339	3,215	3,104	
変動率(%)	100.0	98.6	96.2	94.6	91.1	88.0	

3-2 高齢化の進行と暮らしの変化

高齢化の進行は、日常生活のさまざまな場面に影響を与えています。特に、免許返納後の移動手段や、買い物・通院への不安は、多くの住民から指摘されている課題です。これまで当たり前であった「車での移動」を前提とした暮らしは、今後すべての人にとって持続可能とは言えなくなりつつあります。高齢者だけでなく、子どもや子育て世代にとっても、安全で安心できる移動環境の確保が求められています。



3-3 産業・農地・働き方の変化

三河校区では、農業が地域の基盤産業として長く営まれてきました。しかし近年は、担い手不足や高齢化により、耕作放棄地の増加が課題として挙げられています。一方で、働き方の多様化により、校区外で働く人や、兼業・複業といった形で暮らす人も増えています。こうした変化は、地域に新しい視点や可能性をもたらす一方で、従来の地域活動との関わり方に調整を必要とする場面も生んでいます。

3-4 道路・交通・生活基盤の現状

道路・交通に関する課題は、今回実施した住民アンケートの自由記載において、最も多くの意見が寄せられた分野です。校区内には、道幅が狭く、見通しの悪い道路や、老朽化により舗装状態が悪化している箇所が複数存在します。また、通り抜け車両の増加や、制限速度を超える車両への不安の声も多く見られました。これらの道路環境は、歩行者や自転車利用者にとって危険であるだけでなく、高齢者や子どもが外出を控える要因ともなっています。さらに、災害時には、避難や緊急対応の面でも課題を抱えています。

今後は、

- ・ 道路幅員
- ・ 舗装状況
- ・ 交通量
- ・ 通学路・生活道路の位置
- ・ 災害リスク箇所

などを整理し、現状を数値や地図で可視化した上で、改善の優先度を検討する必要があります。

3-5 生活環境・安全・安心をめぐる変化

生活環境に関しては、煙や農薬、騒音、景観といった点について、以前よりも住民の意識が高まっていることがうかがえます。特に、健康への影響や、日常生活への支障を感じる場面については、相談先や共有の仕組みが分かりにくいという声もありました。また、防災に関しては、河川に近い立地条件から、災害時のリスクを意識する声が多く聞かれます。地域の実情に即した防災のあり方が、あらためて求められています。

3-6 10年前の計画以降に見えてきた課題

10年前の地域振興計画策定時には、地域のつながりや協力関係を前提とした取り組みが想定されていました。しかし現在では、その前提そのものが揺らぎつつあり、「これまで通り」を続けることが難しくなっている分野もあります。一方で、住民一人ひとりが地域の将来を考え、声を上げる機会が増えていることは、三河校区にとって大きな変化であり、可能性でもあります。

本章で整理した現状と変化を踏まえ、次章では、住民アンケートから見えてきた具体的な声をもとに、三河校区が直面している課題をより詳しく整理していきます。

第4章 住民アンケートおよびワークショップから見た地域の声

4-1 アンケートの概要

本計画の更新にあたっては、三河校区の現状や課題を幅広く把握するため、住民アンケートを実施しました。アンケートでは、選択式の設問に加え、自由に意見を記入できる自由記載欄を設け、日々の暮らしの中で感じていることや、地域に対する率直な思いを記していただきました。その結果、数値だけでは把握しきれない、生活の実感や違和感、期待が多く寄せられました。

4-2 自由記載意見の整理方法

自由記載欄に寄せられた意見については、内容を一つひとつ確認し、意味の近いものをまとめる形で整理を行いました。その結果、三河校区に関する意見は、次の7つのカテゴリに大きく分類されました。

- ・ コミュニティ・役回り・人間関係
- ・ 子育て・教育
- ・ 道路・交通・移動
- ・ 生活環境・安全・衛生
- ・ 行政・制度・地域運営
- ・ 行事・イベント・参加しやすさ
- ・ 地域資源・産業・将来像

この分類は、課題を切り分けること自体を目的とするものではなく、住民がどのような点に不安や期待を感じているのかを把握するための整理として行っています。

4-3 声の多かったテーマとその特徴

分類した意見を件数で整理すると、特に多くの声が寄せられたのは、「道路・交通・移動」に関するものでした。道路の狭さや老朽化、通り抜け車両の増加や速度への不安、高齢者や子どもの移動のしづらさなど、日常の暮らしに直結する意見が多く見られました。

次いで多かったのは、行事や役回りの負担、人間関係の息苦しさといった、コ

コミュニティや地域運営に関する声です。これらの結果から、三河校区の課題は、単一の分野にとどまらず、暮らし全体に関わる構造的なものであることがうかがえます。

4-4 代表的な意見から見える暮らしの実感

自由記載には、次のような具体的な声が寄せられました。

「道が狭く、車と人がすれ違うのが怖い」

「高齢になり、免許返納後の移動が不安」

「行事や役回りが負担で、参加しづらい」

「子どもが安心して参加できる地域を増やしてほしい」

「地域の良さはあるが、若い人が戻りにくいと感じる」

これらの意見からは、不満や不安だけでなく、「もっと良くしたい」「続けていきたい」という前向きな思いも読み取ることができます。

4-5 10年前の計画との比較から見える変化

10年前に策定された地域振興計画では、地域のつながりや協力関係を前提とした取り組みが多く想定されていました。一方、今回のアンケートでは、その前提そのものが揺らいでいることを示す声が多く見られました。特に、移動手段への不安、行事・役回りの負担感生活環境に対する意識の高まりといった点は、10年前よりも明確に表面化している課題です。これは、地域が弱くなったということではなく、暮らし方や価値観が変化していることの表れであると考えられます。

4-6 アンケートから見えてきた三河校区の課題像

アンケート結果を総合すると、三河校区の課題は、「道路・交通」「コミュニティ」「生活環境」「将来への不安」といった複数の要素が重なり合っていることが分かります。これらの課題は、一つひとつを個別に解決するだけでなく、相互の関係性を意識しながら整理していく必要があります。

次章では、今回のワークショップでの対話を通じて、これらの課題をどのように受け止め、どの課題を優先的に取り組むべきかについて整理していきます。

第5章 住民ワークショップの実施と対話の記録

5-1 ワークショップ実施の位置づけ

本計画の更新にあたっては、住民アンケートによって多くの声を把握することができましたが、数値や文章だけでは捉えきれない「感じ方の違い」や「課題の背景」を共有するため、住民ワークショップを実施しました。

ワークショップは、意見を集約したり、結論を出したりする場ではなく、地域の現状を言葉にし、共有する場として位置づけています。

5-2 第1回ワークショップの概要

日時：2025年12月10日

目的：住民アンケートの結果をもとに、課題を共有・整理すること

第1回ワークショップでは、「課題を共有して整理する」ことをテーマとし、住民が感じている違和感や要望を、自由に言葉にするところからスタートしました。参加者は、「こういうのがあればいいのに」「こうなったらいいのにな」と思うことを紙に書き出し、会場内を歩きながら似た思いを持つ人同士でグループをつくりました。

ワーク1：課題の書き出しと分類

書き出された意見は、住民アンケートでの分類に従い、以下のカテゴリに分けて整理しました。

- ・ 道路・交通・移動
- ・ 子育て・教育
- ・ 生活環境・安全・衛生
- ・ 行事・イベント・参加しやすさ
- ・ 行政・制度・地域運営
- ・ コミュニティ・役回り・人間関係
- ・ 地域資源・産業・将来像

似た意見を縦につなぎ、種類ごとに横に並べることで、声の多さや偏りが視覚的に把握できる形となりました。

ワーク2：気になるカテゴリーの選択

参加者は、特に気になるカテゴリーを一つ選び、「なぜそれを選んだのか」について語り合いました。この段階では、結論を出すことよりも、課題への関心や背景を共有することを重視しています。



5-3 第1回ワークショップで見えてきたこと

第1回ワークショップを通じて、特に多くの意見が集まったのは、道路・交通・移動に関する課題でした。道幅の狭さ、夜間の暗さ、公共交通やタクシーの利便性、免許返納後の移動への不安など、暮らしの基盤に関わる声が多く見られました。また、行事や役回りの負担、集まれる場所の不足など、課題が単独ではなく、相互に影響し合っていることも明らかになりました。

5-4 第2回ワークショップの概要（未来を描く）

日時：2026年1月14日

目的：課題をポジティブに捉え、解決の方向性と未来像を描くこと

第2回ワークショップでは、第1回で整理した課題を踏まえ、「みらいを描く」ことを目的として、以下の3つのテーマに分かれて対話しました。

1. 暮らしを支える
2. 人と未来を育てる
3. 場と資源を活かす

なお、第1回のワークショップで出された意見を、「事象」「課題」「行動」に仕分け、課題の構造を整理しました。これにより、「困っていること」と「できそうなこと」が混在していた状態から、次の一步を考えやすい形へと整理されました。最後に、「課題が解決すると、どんな三河校区になるか」をテーマに、未来の姿を言葉にしました。

5-5 「暮らしを支える」テーブルでの対話

このテーブルでは、自治会や子ども会など、地域組織の担い手不足が中心的な議題となりました。参加者からは、役員のなり手がいないことで組織運営が成り立たず、イベントを企画しても、その運営自体が役員の負担となり、疲弊してしまう状況が語られました。

また、過去に地域を盛り上げていた中心的な人物が亡くなった後、その意志を引き継いでいこうとする人が現れず、空白が生じていることへの戸惑いも共有されました。

若い世代に期待する声はあるものの、仕事や家庭との両立が難しく、役員まで引き受ける余裕がない現実も理解されており、現状維持すら難しいという認識が示されました。

対策として、若い人への声掛けや機運づくり、役員報酬を増やして仕事として担う形などが挙げられましたが、これまでのやり方を見直すという点では、具体的なアイデアは多く出ませんでした。

この対話からは、担い手不足が意欲の問題ではなく、構造的な限界として認識されている状況が浮かび上がりました。

5-6 「人と未来を育てる」テーブルでの対話

このテーブルでは、自治会、PTA、子ども会、消防団など、地域活動全般の担い手不足が話題となりました。

地区によって、人はいるが新しく入ってきた人が参加しにくい状況と、そもそも人が少ない状況があり、課題の現れ方に違いがあることが共有されました。一方で、実際に役を担っている人からは、「やってみると楽しいことも多い」という声があり、外から見える「大変そう」という印象が、参加のハードルを高く

しているのではないか、という気づきもありました。

役員を個人単位ではなく、家族や世帯単位で捉えること、子連れで参加できる集まり、世代を超えた交流の場づくりなど、参加の形を柔軟かくするアイデアが出されました。

一方で、「人と未来を育てる」というテーマでありながら、子ども自身について語られる場面が少なかったことも、参加者の間で共有されました。

5-7 「場と資源を活かす」テーブルでの対話

このテーブルでは、交流の場づくりという話題から、次第に空き家の問題へと議論が集まりました。空き家の増加や倒壊の危険、雑草管理の問題などが挙げられるとともに、人口減少、後継者不在、交通の衰退、祭りや共同作業の維持の難しさなど、複数の課題が連鎖している状況が語られました。

一方で、民泊や農泊、農村留学の誘致、矢部川沿いの桜並木の維持と PR、空き家バンクの見える化など、具体的な取り組み案も多く出されました。特に印象的だったのは、「今参加している人たちの家は、20 年後どうなっているのか」という問いかけでした。

この問いにより、空き家を将来の問題としてではなく、今から準備できることがある課題として捉え直す視点が共有されました。

5-8 第 2 回ワークショップから見えてきたこと

第 2 回ワークショップを通じて、三河校区の課題は、解決策が明確に見えているものばかりではなく、模索の途中にあるものも多いことが確認されました。

一方で、課題を直視し、言葉にし、共有できたこと自体が、今後の計画づくりにおいて重要な一歩となっています。これらの対話を踏まえ、次章では、事務局により整理した優先課題を示し、三河校区として向き合っていく方向性を整理します。

第6章 優先的に取り組むべき課題

6-1 優先課題を整理する考え方

三河校区には、道路・交通、地域組織の担い手不足、生活環境、空き家など、多様な課題が存在しています。本計画では、これらすべてを同時に解決するのではなく、住民アンケートおよび2回のワークショップで語られた内容をもとに、今後の検討や取り組みの起点となる課題を整理しました。

この整理は、課題に優劣をつけるものではなく、三河校区として共通認識を持つための整理です。

6-2 課題の優先度整理のプロセス

優先課題の整理は、ワークショップの場で参加者が直接順位づけを行ったものではありません。第2回ワークショップでは、各テーマについて、現状の悩みや行き詰まり、期待や可能性が率直に語られました。

事務局では、以下の視点から、アンケート結果およびワークショップでの発言内容を整理しています。

- ・ 複数のテーブルで共通して語られた内容
- ・ 日常生活への影響が大きいと感じられている点
- ・ 他の課題にも連鎖していると考えられる点
- ・ 今後の検討や対話につなげやすいテーマ

これらを総合的に整理した結果、次に示す課題が、現時点で特に重要であると整理しました。

6-3 優先的に取り組むべき課題（1）

暮らしを支える基盤の不安定化

ワークショップでは、道路・交通の話題そのものは第2回では多く出なかったものの、その背景として、暮らしを支える基盤への不安が繰り返し語られました。

- ・ 地域組織の担い手不足
- ・ 役員や行事運営が回らない不安

- ・ 「続けたいが、続けられない」という状況

これらは、暮らしの安心を支えてきた仕組みが、限界に近づいていることを示しています。

担い手不足は、個人の意欲の問題ではなく、役割や負担の構造そのものの問題として整理する必要があります。

6-4 優先的に取り組むべき課題（2）

人と未来を育てる仕組みの停滞

「人と未来を育てる」テーブルでは、自治会、PTA、子ども会、消防団など、多くの組織で担い手不足が共通の課題として挙げられました。

一方で、実際に役を担っている人からは、やりがいや楽しさも語られており、外から見える印象とのギャップがあることが分かりました。

また、若い世代が将来を担う存在として語られる一方で、子ども自身についての議論が少なかったことも特徴的でした。

これらから、「育てたい」という思いと、それを支える仕組みが結びついていない状況が課題として整理されます。

6-5 優先的に取り組むべき課題（3）

場と資源（空き家）をめぐる課題の顕在化

「場と資源を活かす」テーブルでは、空き家の問題が中心的な議題となりました。

空き家は、倒壊や景観といった個別の問題にとどまらず、

- ・ 人口減少
- ・ 交通の衰退
- ・ 祭りや共同作業の維持困難
- ・ 環境管理の担い手高齢化

といった、地域の変化が重なった結果として捉えられています。

一方で、空き家を活用した民泊・農泊、モデル的な利活用、空き家バンクの見える化など、前向きな提案も多く出されました。

これらから、空き家は「問題」とであると同時に、将来に向けた準備を始めるべきテーマとして整理されます。

6-6 課題相互の関連性

ワークショップ全体を通じて、各課題は独立して存在しているのではなく、相互に関係していることが確認されました。

- ・ 担い手不足は、行事や環境管理の継続を難しくする
- ・ 交通や利便性の低下は、転出や空き家増加につながる
- ・ 空き家の増加は、地域の活気や安心感を低下させる

このように、暮らし・人・場の課題は循環的に影響し合っています。

6-7 本計画における重点課題の整理

以上を踏まえ、本計画では、次の3点を重点課題として整理します。

- ・ **暮らしを支える基盤（組織・役割）の再整理**
- ・ **人と未来を育てる関わり方の再設計**
- ・ **場と資源（特に空き家）への向き合い方**

次章では、これらの重点課題に対して、三河校区が目指すビジョンを、3つのテーマに沿って示します。

第7章 テーマ別ビジョン（三河校区が目指すこれからの姿）

本章では、住民アンケートおよび全2回のワークショップでの対話を踏まえ、三河校区が今後目指していく姿を、次の3つのテーマに沿って整理します。

- ・ 暮らしを支える
- ・ 人と未来を育てる
- ・ 場と資源を活かす

これらのテーマは、あらかじめ設定されたものではなく、ワークショップで語られた内容を整理する中で、自然に浮かび上がってきた視点です。

7-1 テーマ① 暮らしを支える

【ビジョン1】 続けたい思いが、続けられる形で守られている校区

ワークショップでは、自治会や子ども会などの地域組織が、担い手不足により運営の継続が難しくなっている現状が率直に語られました。

三河校区では、「地域をなんとかしたい」「続けたい」という思いはある一方で、仕事や家庭との両立が難しく、役員まで引き受ける余裕がない状況が広がっています。

今後は、誰かが無理をして支える形ではなく、役割や規模、関わり方を見直しながら、続けたい思いが形として残る校区を目指します。

【ビジョン2】 担い手不足を“意欲”ではなく“構造”として捉える校区

担い手不足は、個人のやる気や責任感の問題ではなく、役割の重さや仕組みそのものの問題として共有されました。

役員報酬の考え方や、仕事として担う形、外部の力を借りることも含め、「どうすれば回るか」という視点で考えられる校区を目指します。

7-2 テーマ② 人と未来を育てる

【ビジョン 3】 関われる人が、関われる形で関われる校区

「人と未来を育てる」テーブルでは、多くの地域活動で担い手不足が共通課題として語られました。

一方で、実際に関わっている人からは、「やってみると楽しい」という声もあり、外から見える印象とのギャップが指摘されました。

今後は、役割を個人単位ではなく世帯単位で捉えることや、子連れで参加できる集まりなど、関わり方の選択肢がある校区を目指します。

【ビジョン 4】 次世代に“頑張り”だけを引き継がない校区

ワークショップでは、「若い人に頑張ってもらいたい」という声がある一方で、現実的に余裕がない状況も理解されていました。

三河校区では、「引き継ぐこと」そのものが目的になるのではなく、引き継がなくても壊れない仕組みを整えることで、次の世代が無理なく関われる校区を目指します。

7-3 テーマ③ 場と資源を活かす

【ビジョン 5】 空き家を“問題”ではなく“準備のテーマ”として捉える校区

「場と資源を活かす」テーブルでは、空き家の問題が中心的に語られました。

空き家は、倒壊や管理の問題だけでなく、人口減少、交通の衰退、祭りや共同作業の維持の難しさなど、地域の変化が重なった結果として捉えられています。

一方で、民泊・農泊、農村留学、モデル的な活用など、前向きな提案も多く出されました。

特に、「今参加している人たちの家は、20年後どうなっているのか」という問いかけをきっかけに、空き家を将来の問題ではなく、今から準備できるテーマとして考える視点が共有されました。

【ビジョン 6】すでにある資源を、無理なく活かす校区

矢部川沿いの景観や、地域の祭り、既存の施設や空間は、三河校区の大切な資源です。

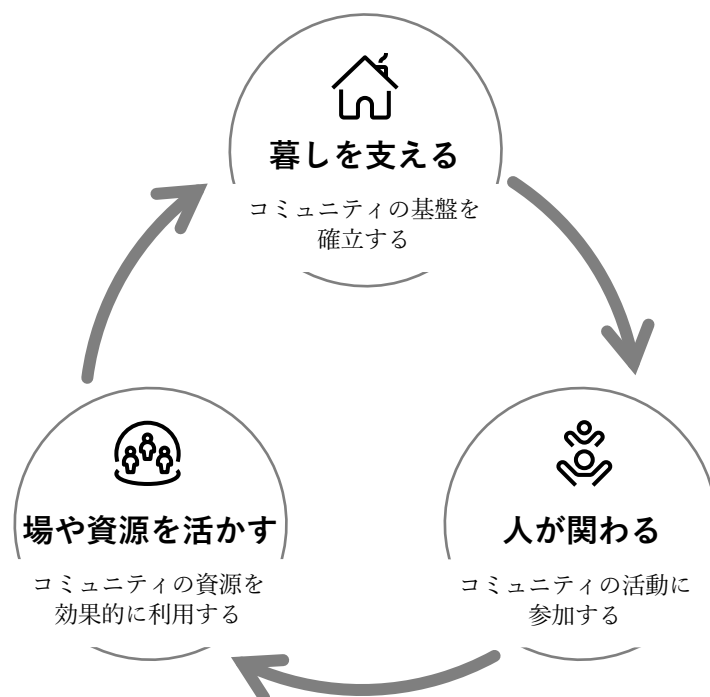
これらを無理に広げたり、新たに作り出したりするのではなく、今あるものを活かし、暮らす人が誇りを持てる校区を目指します。

7-4 テーマを貫く考え方

3つのテーマは、それぞれ独立したものではなく、互いに関係し合っています。

- ・ 暮らしが支えられることで、人が関われる
- ・ 人が関わることで、場や資源が活かされる
- ・ 場や資源が活かすることで、暮らしの安心につながる

この循環を意識しながら、次章では、これらのビジョンを具体的な行動へと落とし込んでいきます。



第8章 アクションプラン（ビジョンを現実につなげるために）

本章では、第6章で整理した重点課題と、第7章で示した3つのテーマ別ビジョンをもとに、三河校区が今後取り組んでいく方向性を短期・中期・長期の時間軸で整理します。

ここで示すアクションは、「必ず実施する計画」ではなく、地域の状況や担い手の余力に応じて選択・調整しながら進める指針として位置づけるものです。

8-1 短期（おおむね1～3年） 現状を見える化し、対話を続ける段階

短期では、新たな負担を生まないことを最優先に、現状を把握し、共有することに重点を置きます。

（1）暮らしを支える基盤に関する取り組み

自治会や子ども会など、地域組織の役割・負担の整理行事や役回りの実態を見える化する「やらなくてもよいこと」「簡素化できること」の洗い出し

（2）人と未来を育てる関わり方の整理

役員や地域活動の実態や楽しさを共有する機会づくり世帯単位・子連れ参加など、関わり方の選択肢の整理無理なく関われる関係性づくりの対話の継続

（3）空き家・場・資源の現状把握

校区内の空き家および空き家予備軍の把握相続や管理、処分、活用に関する相談先の整理既存施策（空き家バンク、レンタサイクル等）の周知

8-2 中期（おおむね4～6年） 試しながら形をつくる段階

中期では、短期で整理した内容をもとに、試行的な取り組みを通じて、無理のない形を探る段階とします。

（1）暮らしを支える仕組みの見直し

行事や役割の分担方法の見直し報酬や外部委託など、役割を仕事として担う形の検討続けることを前提としない運営方法の検討

(2) 人と未来を育てる実践

世代を超えた交流の場づくり役を担う人の固定化を防ぐ仕組みづくり「頑張る人」を増やすのではなく、「無理を減らす」視点の共有

(3) 空き家・地域資源の試行的活用

民泊・農泊・農村留学など、モデル的な活用の検討空き家バンクの見学・PRの工夫祭りや行事と組み合わせた外部参加の仕組みづくり

8-3 長期（おおむね7～10年） 仕組みとして定着させる段階

長期では、これまでの取り組みを振り返りながら、三河校区の実情に合った形として定着させることを目指します。

(1) 暮らしを支える基盤の安定

地域運営の負担が特定の人に集中しない体制づくり行政や外部との連携を前提とした地域運営

(2) 人と未来を育てる循環づくり

次の世代に「役割」だけでなく「選択肢」を残す関係人口も含めた多様な関わり方の定着

(3) 空き家・場・資源を活かした将来像の共有

空き家を含めた地域資源の活用方針の共有地権者・地域・行政の役割分担の整理

8-4 アクションプランの進め方

本アクションプランは、一度決めたら終わりではなく、状況に応じて見直し、育てていくことを前提としています。

ワークショップや対話の場を通じて、住民の声を定期的に確認しながら、できることから少しずつ進めていきます。

住民アンケートで特に声の多かった道路・交通・生活環境への短期的対応

住民アンケートにおいて、「道路・交通・生活環境（騒音、煙、農薬、景観等）」に関する意見は、他の項目と比べても特に多く寄せられました。

これらの課題は、日々の暮らしに直結し、不満や不安として蓄積しやすい一方で、すぐに大規模な整備や制度変更が難しい側面もあります。

そのため短期では、物理的な改善に着手する前段階として、困りごとを把握し、共有し、未然に防ぐ仕組みづくりを重視します。

(1) 道路・交通に関する短期的な取り組み

危険箇所や通行しづらい場所について、住民の声を整理・共有する

- ・ 通り抜け車両やスピードに関する不安について、現状把握を行う
- ・ 災害時に支障となる恐れのある倒木・路面状況の確認
- ・ 行政への要望や相談を行う際の優先順位づけ

※ 数値や箇所数については、今後の調査結果をもとに整理する。

(2) 生活環境（煙・農薬・騒音・景観等）に関する短期的な取り組み

- ・ 煙や農薬散布、騒音など、生活環境に関する困りごとの整理
- ・ 「苦情」ではなく「相談」として共有できる窓口や伝え方の検討
- ・ 地域内で配慮を呼びかけるための情報共有の工夫
- ・ 景観や環境維持に関する現状把握と担い手の確認

(3) 対話を通じた合意形成の継続

これらの課題は、一方的な正解を示すことが難しく、立場や感じ方の違いが生じやすいテーマです。

短期では、「誰が悪いか」を決めるのではなく、暮らしの中で起きている困りごとを共有し、お互いの状況を知るための対話を重ねることを重視します。これらの整理結果をもとに、中期以降において、数値や箇所を明確にした対応を検討していきます。

第9章 計画の推進体制と役割分担

9-1 計画を進めるための基本的な考え方

本計画は、行政や一部の担い手だけが進めるものではなく、地域・行政・関係団体が役割を分かち合いながら進める計画です。

三河校区の課題は多様であり、一つの主体ですべてを担うことは現実的ではありません。それぞれの立場や強みを活かし、無理のない形で連携していくことを大切にします。

9-2 協議会の役割

協議会は、本計画を進めるうえでの調整役として、次のような役割を担います。

- ・ 地域の実情や変化の把握
- ・ 住民アンケートや各種データの整理・分析
- ・ 行政との連絡・調整
- ・ 計画の進捗確認と見直しの整理

また、ワークショップや対話で生まれた声を、計画や施策につなげるための「翻訳役」として、客観的な視点で整理を行います。

9-3 住民の役割

住民は、計画の「実行主体」であると同時に、計画を育てていく存在です。

- ・ 日々の暮らしの中で気づいたことを共有する
- ・ 無理のない範囲で地域に関わる
- ・ 次の世代へ経験や思いを伝える

といった、一人ひとりの関わりが、計画の実効性を高めていきます。参加の形は一つではなく、関われる人が、関われる形で関わることを前提とします。

9-4 外部人材、組織の役割

外部人材や組織を活用することで、住民同士の対話を促し、声を引き出し、整理する役割を担わせることもできます。具体的には、

- ・ ワークショップの設計・運営

- ・ 参加者の声の記録・整理
- ・ 課題やビジョンの言語化
- ・ 振り返りや対話の場づくり

などを通じて、地域が自ら考え、動くための「きっかけづくり」を支えます。

9-5 行政・関係機関との連携

道路・交通、防災、空き家など、地域だけでは解決が難しい課題については、行政や関係機関との連携が欠かせません。地域の声を丁寧に共有しながら、現実的な改善につなげていくため、継続的な対話と情報共有を行っていきます。

9-6 計画の振り返りと見直し

本計画は、策定して終わりではありません。一定期間ごとに、取り組みの進捗や状況の変化を振り返り、必要に応じて見直しを行います。その際も、住民の声を大切にしながら、柔軟に更新していくことを基本とします。

第 10 章 おわりに

三河校区地域振興計画（更新版）は、10 年前に描かれた将来像を土台としながら、今回の住民アンケートとワークショップを通じて、「今の三河校区の声」を重ね合わせたものです。そこに書かれている課題やビジョンは、完成した答えではありません。むしろ、これから先も考え続けていくための共通の地図であり、対話の材料です。暮らしの中で感じる小さな違和感や、「こうなったらいいな」という思いを、一人で抱え込まず、地域の中で言葉にできること。

その積み重ねが、三河校区の未来を少しずつ形づくっていくと、私たちは考えています。本計画が、次の世代へとつながる小さな一步の支えとなることを願い、ここにまとめとします。

令和 8 年 3 月
三河校区まちづくり協議会

資料編

アンケート集計表
アンケート自由記載欄
協議会役員・運営委員

アンケート集計表

1. 行政区

酒井田	109
高塚	200
宮野	55
上柳瀬	45
中柳瀬	55
下柳瀬	40
矢原	45
光	39
緒玉	48
計	636

2. あなたの年齢は？

20歳代	1	0.2%
30歳代	16	2.5%
40歳代	68	10.7%
50歳代	93	14.6%
60歳代	152	23.9%
70歳代	205	32.2%
80歳代以上	87	13.7%
回答なし	14	2.2%
計	636	

3. 家族構成は？

一人暮らし	113	17.8%
夫婦二人暮らし	169	26.6%
親子同居	247	38.8%
3世代同居	39	6.1%
その他	30	4.7%
回答なし	38	6.0%

70歳以上の人がいる世帯の構成

70歳代	一人暮らし	42	20.5%
(205)	夫婦二人	72	35.1%
80歳代以上	一人暮らし	29	33.3%
(87)	夫婦二人	32	36.8%

4. まちづくり協議会を知っていますか

知っている	335	52.7%
知らない	288	45.3%
回答なし	13	2.0%

5. 知っていると答えた方

活動内容を詳しく知っている	27	8.1%
大体知っている	137	40.9%
存在は知っているが内容までは知らない	167	49.9%
回答なし	4	1.2%

6. まちづくり協議会の活動や行事に参加していますか（防災運動会、ウォークラリーなど）

すすんで参加している	54	8.5%
時々参加している	143	22.5%
仕方なく参加している	16	2.5%
参加していない	342	53.8%
参加したいができないことが多い	49	7.7%
回答なし	32	5.0%

7. 参加していないと答えられた方のみ。

参加されない理由は

仕事が忙しい	76	19.4%
子育てや家庭のことで余裕がない	21	5.4%
関心がない	45	11.5%
必要と思うが負担が大きい	36	9.2%
参加するほどの魅力がない	30	7.7%
案内や情報がない	34	8.7%
高齢や病気のため参加できない	119	30.4%
その他	11	2.8%
回答なし	19	4.9%

8. 今後参加したい活動はありますか (複数回答)

健康づくりに関する活動	106
祭りや運動会など地域の交流を図るための活動	90
地域の花いっぱい運動や、清掃・美化などに関する活動	85
ゴミ処理やリサイクル活動に関する活動	73
地域の交通安全や防災・防犯に関する活動	58
子育て支援や教育環境に関する活動	38
高齢者や障がい者の在宅支援などに関する活動	35
地域の歴史や文化を守る活動	30
地域のまちづくりを考え実践していく活動	26
地域住民の声をまとめて行政に伝えていく活動	24
都市との交流や観光に関する活動	18
生涯活動やスポーツに関する活動	17
特になし	201
その他	3

9. いつから三河校区に住んでいますか

生まれて以来住んでいる	198	31.1%
結婚を機に校区以外から来た	141	22.2%
出身地なので戻ってきた	70	11.0%
校区以外から引越してきた	150	23.6%
回答なし	77	12.1%

10. 三河校区は住み良いですか

住み良い	226	35.5%
どちらかと言えば住みやすい	237	37.3%
どちらかと言えば住みにくい	47	7.4%
住みにくい	23	3.6%
どちらとも言えない	71	11.2%
回答なし	32	5.0%

11. 住み良い・どちらかと言えば住み良い と答えられた。住み良い理由は (複数回答)

自然環境に恵まれている	236
公害や自然災害が少ない	229
住み慣れて愛着がある	188
買い物など日常生活が便利	150
近所付き合いがしやすい	138
通勤・通学などの交通の便が良い	42
道路が整っている	37
防犯や防災の面で安心	29
子育て環境が充実している	20
地域行事等に参加しやすく楽しい	19
教育環境が充実している	9
良い働き場所がある	6
学習やスポーツ活動の機会が充実	6
福祉など生活支援サービスに満足	6
その他	4

**12. 住みにくい・どちらかと言えば住みにくい
と答えられた。住みにくい理由は
(複数回答)**

買い物など日常生活が不便	48
通勤・通学などの交通の便が悪い	27
地域行事等に参加が強制的だから	27
公害や自然災害が心配	26
道路が整っていない	19
防犯や防災の面で不安	15
住んでいても愛着がわからない	13
良い働き場所が少ない	11
近所付き合いがしにくい	8
子育て環境が充実していない	3
福祉など生活支援サービスに不満	3
教育環境が充実していない	2
自然環境が失われている	1
学習やスポーツ活動の機会が充実していない	1
その他	1

13. 10年前と比べて住みやすくなりましたか

かなり住みやすくなった	32	5.0%
やや住みやすくなった	92	14.5%
変わらない	367	57.7%
やや住みにくくなった	46	7.2%
かなり住みにくくなった	7	1.1%
10年前は住んでいない	36	5.7%
回答なし	51	8.8%

14. これからも住み続けたいですか

住み続けたい	490	77.0%
市内の他の場所に移りたい	36	5.7%
市外に移りたい	29	4.6%
その他	30	4.7%
回答なし	51	8.0%

**15. 生活する上での不便・不安と感
じることは何ですか
(複数回答)**

人口が減少し地域がさびれてきている	152
空き家の増加により住宅が荒れている	140
日常の買い物が不便	125
近所付き合いが薄れてきている	97
道路整備	86
地域の共同作業への参加が困難	79
病院への通院が不便	78
小さな子どもの遊び場が少ない	77
防犯・交通安全対策	70
人間関係が難しくなってきた	61
防災対策	54
通勤圏内で働く場所がない	48
伝統行事や文化活動ができなくなっている	39
後継者がおらず家業が続けられない	36
学校への通学が不便	16
その他	4

アンケート自由記載欄

ここでは、アンケートの自由記載欄に寄せられた意見や提案を、原文のまま掲載し、肯定的（前向きな声）と否定的（不安や改善を求める声）に分けたうえで、さらに7つのカテゴリに整理しました。なお、内容が肯定的・否定的の両方を含むものや、複数のカテゴリにまたがるものもありますが、本資料では主なテーマに基づき、いずれか一つに分類しています。

前向きな声

道路・交通・移動

- ・ 以前よりバルビゾン通りより市内側に商業ストアが出来て買い物が便利になり住みやすくなりました。病院、学校もあり生徒があいさつしてくれて楽しい朝夕です。
- ・ 道路整備されている件で前市長の代に雨天後水溜りしない方法を見かけました。感謝します。
- ・ 納骨堂前の整備後、気持ちよく利用することが出来ています。

子育て・教育

- ・ 子育てまでの環境はとても満足している。推進したいところです。成長した後、この地域だけの問題ではないけれど若者が少ない。地域産業の活性化が必要。どの地域もですが。
- ・ 学校が学童の生徒だけでなく、帰宅時に残って遊べるとよい。
- ・ 矢部川河川敷整備に何度か参加しましたが同じ方みの参加と感じられ少し残念に思います。川遊びの安全・危険確認も兼ねて、子どもたちの参加があれば20年後のまちづくりに活かせるかと思います

生活環境・安全・衛生

- ・ 三河校区は矢部川の自然やべんがら村も近く素晴らしいエリアと思います。たとえば矢部川沿いの遊歩道も最近朝早くからウォーキングやジョギング、夕方から夜も利用者が増えています。歩きやすい環境整備をもっと行政として取り組んで、魅力あるエリアに変えていけるように活動してください。特に子供や若い人が住みたいと思う街に少しずつ変えていくことが5年後10年後大切です。
- ・ 公共施設が近いため（住みやすい理由）

行事・イベント・参加しやすさ

- ・ 祭り等があれば良いと思う
- ・ 何か交流会など多ければと思う
- ・ 世代間交流ができるイベントがやりたい。子供会がやっている廃品回収の収益を学校の図書費などに寄付したらどうか。（子供会の予算に余裕があると聞いたので）
- ・ 子育てのしやすい三河校区にする。子どもの祭りや子供が喜ぶ行事をする。運動会とかでなく例えばクリスマスパーティーとか、子供会を町内でする事になる。
- ・ コロナで今まであった運動会や地区の行事がいったん中止になり、その後担い手不足等の理由で復活していないイベントが多くみられます。一度止めてしまうと何々復活は難しいと感じます。今ならまだ「もう1度やってみよう」と皆さんに声掛けをしたら復活できる行事もあると思います。全体で地区の行事を復活させる「声」をあげましょう。

行政・制度・地域運営

- ・ 男女共同参画が薄い。村役の女性登用を検討してほしい。公民館使用について使用範囲を広げてほしい
- ・ 隣組行事の公民館神社等の清掃草むしり等について、猛暑での作業、高齢化の観点から防草シート、コンクリート等にて、作業負担を減らすべきです。隣組会費市の補助金等を活用して次世代へ、管理しやすいようにしていくべきです。
- ・ 市役所にいいたい。乗り合いバスがあるけど人手不足と言ってもほかに委託していると聞いたけど8:30から4:00までとなっているけど、時間を考えて2交代ぐらいで市民の皆さんがよりよく利用できるように、これ自治体のことだけにしないで市長さんの意見も聞いてほしい
- ・ 八女市に保健所を作って欲しい。感染症など今は何かあったら柳川まで行っています。

コミュニティ・役回り・人間関係

- ・ 八女はとても良いところだと思います。伝統行事を維持してもっと高齢になっても住みやすい街であって欲しいです。
- ・ 三河校区まちづくり協議会の皆様に心から感謝申し上げます。今まで自分のことばかりで三河校区の為に、こういう活動をしてか出さっている方々がいるということをおもひませんでした。これから友達に声をかけてこの活動に参加しないといけななと心から思いました。自分だけが良ければという風潮の現代、三河校区まちづくり協議会の理念はとても大事だとつくづく思いました。
- ・ 私の組は高齢者が多くて隣組活動を若い方が多い組と一緒にさせてもらってとても助かっています。老若男女皆に住みよい校区であって欲しいと思っています。
- ・ 地域の中でのいろいろな活動には時々参加します。皆さん良い方たちで地域の温か

さを感じています。ただ不審者防犯等に対応する地域の力に関してはまだ十分ではないと思っています。育成会の話し合いに参加すると「地域力」を高めることが大切だと言われますが具体的にどのような活動をするのか、日常的な活動は何なのかと思っています。提案ですが、『声かけ』の必要性を感じています。子供たちに対しては「いってらっしゃい」「おかえり」「こんにちは」など大人同士も日常的に町で会ったら知らない人でも道で会ったら声掛け、地域に活気が出てくるのでは。

- ・ 柳瀬に住み始めて6～7年になりますが、最初は前の住まいに帰りたいと思ったこともありました。でも、初めて隣組長をさせて頂きました。近所の方の協力もあり、また、近所の方達の温かい思いやりに励まされこの地に慣れた事に実感しています。中柳瀬の区長様はじめ皆様に感謝いたしております。
- ・ 県外に出て行った子供たちが10年後20年後に帰ってこれるような町内になること
- ・ 地域の役員がだんだん少なくなり、大変だと思いますができるだけの協力を続けたい

地域資源・産業・将来像

- ・ 耕作放棄地がふえています。私の田んぼもそうです。野菜などを作ってみたいなどおもってあるかたがいられれば無料でお貸しできますので、そんな話を進めてもらえればと思います。
- ・ 八女市の歴史を知りたい。税金が高い
- ・ 戦後失われたものをとりもどすこと。現実世界を考えて

不安や改善を求める声

道路・交通・移動

- ・ 公共交通機関が不便
- ・ 公共交通がない
- ・ 交通の便が悪い。堀川バスは少なすぎて全く使えない。ふるさとタクシーを利用しているが土日は運航していないし時間も早いので使いづらい
- ・ JR,西鉄などを利用するためには車が必要。公的な手段がほとんどない
- ・ 今現在車で買い物に行ったりするのに運転できています。高齢になったときに免許を返す予定です。返したときにその後の移動の手段として安く利用できるタクシーや生活用品の販売していただけるようなところがあれば良いと思います。移動のお店みたいな。
- ・ 道幅が狭いのに交通量が多い
- ・ 街灯を増やしてほしい。道幅が狭い、車がスピードを出している。
- ・ 車がないと不便、歩くしかない人は大変です
- ・ お店が家の近くにないことやバス、市の乗り合いバスが家の近くに停まらない事、停まる時間帯も少ないので免許返納し車が無くなったらい物が不便になりそうで心配です。
- ・ 車がないと不便
- ・ 今は自分で行けるけど車にのれなくなった時が不安
- ・ 宮野公園から3号線へ行く堤防道路が悪く歩きにくい。車で通ってもがたがた。何年たってもよくなるらない。
- ・ 今の年齢だと考えないが、高齢の母を見ていると将来的にもっと不便さを感じると思う
- ・ 三河小南側～上柳瀬への道路整備を行って欲しい。雨の日に水溜りが多く通学に支障をきたしている。
- ・ 公共交通機関が少なく不便
- ・ 災害もなく住みよいところだと思いますが、車無しでは生活できないのが心配です
- ・ 現在まだ車運転しているので良いが、しなくなったら通院買い物に不便。一人暮らしを少し見守って欲しい
- ・ 下柳瀬から光の方に行く道を広くしてもらいたい（車の通行量が多くなり接触事故なども増えている）
- ・ まだ車の運転はできますが将来車無しの生活ができるのか不安を感じます。
- ・ 車の運転ができなくなったら移転も考えると思う
- ・ 年をとっての生活を考えると車を運転できなくなった時のことが心配。交通機関等が充実していない
- ・ 前高塚区長さんの前の横断歩道に信号をつけてほしいです。小学生の登下校で使う

場所でありかつ車が見えにくく事故が心配です。街灯を多くつけて欲しいです。三河校区にあるコメリの裏の田んぼが多いところをお願いしたいです。そしてとても住みよい町だと思います。

- ・ 夜になると道路が暗いところが多い
- ・ 交通対策につきる。特に歩行者は安心・安全に歩くことが出来ない箇所が多すぎる。例えば、道路に中央線が無いところを 50Km～60Km で走行している車をよく見かける。道路交通法では道路中央線が無いところは時速 40 Km 以内となっているので校区 1 から 2 か所に標示してもらいたい。
- ・ べんがらへ行く車両だと思うが交通量が多く道が狭い。通り抜け車両のスピードの出しすぎ

子育て・教育

- ・ 子どもの数が減ってきた
- ・ 未就学児が遊べる公園が少ない。小学生が休日や放課後に集まれる場所がない。共生の森が子どもたちの溜り場になったらいいと思う。
- ・ 以前に比べて小学生の子どもたちがあいさつをしなくなったように思います。
- ・ 広い公園があったらいいなと思います

生活環境・安全・衛生

- ・ ゴミ出し日を守らない人が多いのでネコやカラスがたかって困っています。
- ・ 宮野の草刈りが大変で移転してくる人もしぶっている
- ・ ゴミや草を燃やしているのか窓を開けると臭い
- ・ 河川の整備が不十分と思う
- ・ 道路・河川愛護の草刈りを楽にしてほしい
- ・ 道路愛護の時、特に秋は草が沢山あり草刈り機でないと無理なところが多い。また、用水路付近の草は草刈りするにも危険。市のほうでどうにかしてほしい
- ・ 散乱ゴミキャンペーンなどでの畑や川へのゴミの冬季は少なくなっているのに田んぼの横の道にはタバコのポイ捨てが多いことに驚く。長年住んでいる土地にゴミを棄てているのは残念です。
- ・ 下水道の整備
- ・ 下水や排水（雨水）を流すための下水道処理施設が不備のため季節によっては悪臭があり不衛生。改善を要する。農業用水路と生活用排水路は兼用されているが、流域の多くは土塁堤のため、その流れが悪く雑草が茂り、農業従事者で定期的に草刈り等はいおうするものの堆積物も大である。よって下水道施設の整備を
- ・ 矢部川河川敷の遊歩道の中川原橋より下流側が夏から秋にかけてクズのつるが伸びて歩行に支障があるほどになるため、ボランティアを募って除草作業を計画してはいかがでしょうか

- ・ 上下水道の整備、三河校区全体の完備、インフラ整備、河川の整備。
- ・ 犬の散歩をしているとフンがよく落ちています。看板も書いてありますが、まだ取らないで帰る人がいるのか野良犬なのか分かりませんが、散歩をさせるマナーとして飼い犬のフンはきちんと処理することを徹底してほしい。
- ・ 近所に空き家が多く荒れているので防犯上心配
- ・ 夜街灯が無いため、暗い場所が多い
- ・ バルビゾン通りが夜間暗い
- ・ 河川の整備が必要
- ・ 町内に防犯カメラの設置がなく安全面に少し不安がある
- ・ 矢部川堤防の防災
- ・ 矢部川の近くなので毎年梅雨の時期は水害がないか不安です
- ・ 矢部川の洪水時堤防管理を国県を通して実施してもらいたい
- ・ 防災の面では、水害等の災害避難時の避難指定場所が三河小体育館であり、これは水害時に全く不当であり、もっと広域行政区（北山方面含む）で考慮するか高僧建物の避難所（緊急）を各所に設置する党が必要。
- ・ 大雨の時矢部川のことが大変心配になります
- ・ 花宗川の川底の泥や草木を掃除してほしい。水害の心配が大きい
- ・ 有線放送で雑音が多くて聞きづらいので改良してほしい。ラジオがわるいのか？
- ・ べんがらのイベントのとき BGM などがかなりうるさいときがある

行事・イベント・参加しやすさ

- ・ アンケートを実施してくださることに感謝しますが、地域の催しが苦痛でたまりません。他の校区は楽しそうでうらやましいです。もっと考えて住めばよかったと後悔しています。
- ・ 年寄りと若い人の会合が無くなっている。共同の意味がなくなっている。村の行事が無くなっている。特に飲み会が。
- ・ 町内活動を自由参加にしてほしい
- ・ 高齢者に対してやさしくない。何歳まで町の行事をさせるのか理解できない。行事の最中に何かあったらどう責任を取るつもりなのか。
- ・ 子育てや仕事をしながら時間も取れないなか、夕方から始まる廃品回収での手伝い、急に始まる地域の会合に参加すること。この地域だけなのか分かりませんが、共働き世帯にとっては負担が多いと感じます。会合で連絡することは書面ですとか別の方法で活用し、廃品回収に人が立たないようにしてほしいと思います。昔から受け継がれたことを行っていると思いますが時代に合っているとは思えず、負担が減るようにしてほしいです。会合が強制的に参加しなければいけない状況を作るのではなく、参加できる人が参加して、出来なかった人に伝えるという方法をとるなど、時代の変化とともに変えあていてほしいと思います。

- ・ 矢部川河川敷グラウンドが今ラジコンカー専用になって立ち入れないようになっている。許可書が張ってあって立ち入れないようになっている。ここを整備して子どもたちが親と遊べるようになったらと思う

行政・制度・地域運営

- ・ 借家住人と地域のルール作りについて
- ・ 市外から土地を購入して永住される方で町内会に入会されない方が増えている様です。このままでは入会されないならば、町内会の諸行事（道路愛護や水路の清掃も不要だから）に出なくてよいし、町内会費の納入も不要とかで、これが増えたら将来が気になっています。市の行政でどうにかならないか、どうですか。
- ・ 行政区の行事その他にあまりにも男性優位となり過ぎているけいこうにあり、女性参画がよくせいされている要因になっている。行政区に女性自らの参画意欲が欠けている（現在まで長い物に巻かれ過ぎているためであろう）
- ・ 不法移民を増やさないように

コミュニティ・役回り・人間関係

- ・ コミュニティの維持が困難。消防団のなり手がない
- ・ 高齢者が増え、少し若い世代への負担増
- ・ 今から10年後町内の人口が減り、老人ばかりで空き家だらけになり雑草だらけの土地になり田んぼは荒れて河川はよごれ、祭りや行事ごとができなくなり、子どもはいなくなり、できなくなる。今残す行事とやめることを考える時期だと思っています。町内の出ごとを少なくする。10年後のアンケートが変わっていることを願います。今こんなアンケートが役に立ちますか、もっと内容のあるものにしたら。
- ・ 近所の同年代の方がいなくなり話し相手が少なくなってきた。
- ・ 必ずといわれないと参加しない（参加しない理由）町の高齢化が進み、今後の町内の取り組みが不安
- ・ 宮野は三河校区の中で3遍目に世帯数が多かった覚えがあります。全部の行政区隣組代金？分かりませんが宮野は昔に比べて倍くらいになっている。高齢化社会が進み人口が減りどうなるのかが少し心配です。いつかは分かりませんが三河校区内のどこかと一緒になって運営していく時代もやってくようなきがします。
- ・ どの町内にもあると思いますが、人口減、老人ばかり後継者不足、空き家増、町内を歩いても人と会わない。（子供には全然会わない）この先10年位で我が家、周りの家も2人1人と人数が減り、町内行事にも支障が出てくると思います。八女市全体での話をもっとスピードを持って行ってほしい。
- ・ 一人暮らしなり皆と会話できる場が欲しい公民館にて簡単な体操、おしゃべりする、そんな場があって欲しい
- ・ 隣組を廃止してほしい

- ・ 河川清掃等参加が少なくなっていく（高齢化）
- ・ グローバルリズムに乗らない。地域性が失われる
- ・ 消防団の定員問題がいい例だと思うのですが、下の代がいないので一度受けたら抜けられない。この先この状態が町内の役員でも同じように発生してくると思うので自分たちの子どもの代に同じように住み続けるとはとても思えない。この状態を打開するには、年齢の上の方の協力が必要と思う。「もう年だから・・・」ではなく先々の代のことを考えてほしい。

地域資源・産業・将来像

- ・ 校区に下水道を完備してもらいたい。完備することにより企業の誘致が促進され人口減少にも対応できる。
- ・ 三河校区にお店（食品）が出来たらいいですね
- ・ 八女市全体が当然だが久留米市と何から何まで違いすぎる。例えば喫茶店も少ないし、コーヒーを飲むにしてもコンビニ頼みだし、はたまた大物コーヒーチェーンはドトールのみ。スターバックスは筑後市に出店するし、丸亀製麺、宅配ピザも筑後にしかありません。八女市はどうなるのでしょうか。できるのはドラッグストアかコンビニエンスストアぐらい。そんなに何店舗も必用でしょうか。
- ・ 子どもが少なくなっている。三河校区にアパートも少なくマンションもないので人口が減少していく。働ける場所を増やし、子育てに良い環境などアピールする。
- ・ 海外移住を検討中。三潞に水沼の里2000年記念の森と三潞総合福祉センターというところがあり、子どもとお年寄りが多くいて、ランチも食べられます。八女には共生の森がありますがちょっと寄りづらいので（もっと子どもが遊べたら行くかもですが）三潞のところのようになればいいなと思いましたので、見にいかれてください。お年寄りのイキイキしていました。
- ・ べんがら村のリニューアルによってかえって利用しづらくなったと思う。その第1が玄関に入って目の前にビールコーナーが並び、さながらビアホールに来たみたい。客のほとんどが自家用車で来ると思われるのに。もし、自分が警察の交通課だったら毎日出口付近で待って飲酒運転の取り締まりをすれば毎日いっぱいの人が捕まるのでは。
- ・ アパートが多すぎます
- ・ 高塚には公務員アパートが3棟程ありますが、空室ばかりでどうにかならないのですか。私は20年前こちらに来たのですが、ずっと空室ばかり。
- ・ 店が遠い。以前べんがら村がよかった。買い物ができた。
- ・ 宮野公園の木が大きくなっている、もう少し減らして遊びやすい公園にしてもらいたい
- ・ 救急病院である公立八女総合病院が廃れてきて良い先生がいなくなっている。安心して利用できない病院になっている

三河校区まちづくり協議会役員・運営委員

役職名	氏名	所属
会長	中島 秀徳	行政区長
副会長	松尾 久弘	〃
副会長	田中 勝典	〃
事務局長	梅野 満	事務局
理事	松崎 稔	行政区長
理事	諸富 昭一	〃
理事	江崎 文生	〃
理事	山中 信孝	〃
理事	近藤 弘幸	〃
理事	大石 一之	〃
運営委員	井上 正伸	自治公民館長会
運営委員	甲斐田 義郎	民生・児童委員会
運営委員	古賀 謙一郎	シニアクラブ
運営委員	甲斐田 桂佑	消防団第4分団
運営委員	山口 志保	南中学校 PTA
運営委員	井上 智博	三河小学校 PTA
運営委員	松崎 辰義	青少年育成会・交通安全協会
運営委員	川島 昇	事務局補助員
運営委員	井上 良徳	事務局補助員
監事	甲斐田 敏典	矢原
監事	松崎 美樹	酒井田
サポート	東 由佳	八女地区集落支援員

発行： 令和 8 年 3 月
企画・編集： 三河校区まちづくり協議会
令和 7 年度 八女市地域づくり提案事業

製作支援・ワークショップ企画： まちづくり団体「あとおし」

<https://atooshiyame.jp/>

あとおしは令和 5・6・7 年度 八女市 市民との協働によるまちづくり提案事業の採択団体です。